カルメル
霊性センターニュース

聖母子像（宇治カルメル会修道院）

2019 年 12 月　　359 号

『霊性センターニュース』
2020 年度の郵送お申込みのご案内

霊性センターニュース 愛読者の皆様

ご愛読をありがとうございます。

2020 年度（1 月～12 月、8 月休刊のため 11 冊）の『霊性センターニュース』郵送をご希望される方は、以下の振替口座に 2,750 円程度の献金（郵送料込みで 1 冊 250 円の献金とすれば、11 冊で 2,750 円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「霊性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなくご記入ください。

お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスか e-mail で、お願いいたします。

また、既にお申込み頂いている方、ご献金頂いた方へ重複したお知らせとなります事、お詫び致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル霊性センターニュース』編集長
中川博道 o.c.d.

目次

来年度の郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・3

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２７

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

名古屋・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・３５

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・４３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・４４

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

【教会からの言葉】

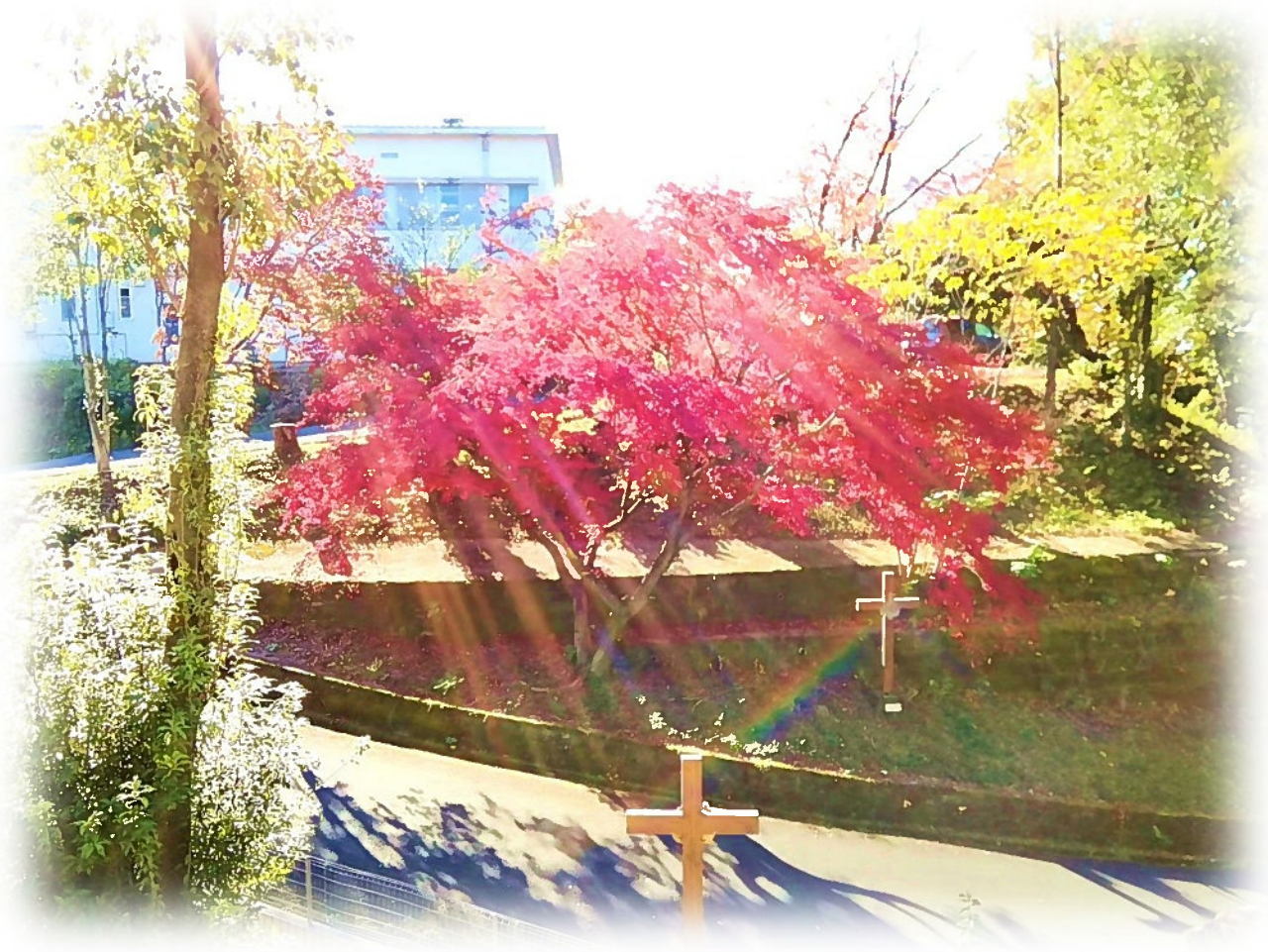
「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

わたしたちはイエスによって救われています。それは、イエスがわたしたちを愛しておられるからで、そうせずにはいられないからです。わたしたちはありとあらゆることをしでかしてしまうのですが、それでもこのかたはわたしたちを愛し、救ってくださいます。愛させるだけで救われるからです。すがるだけで、変えていただけるのです。主の愛は、わたしたちがどんな反抗をしようと、どれだけ弱かろうと、どんなにさもしかろうと、それらをはるかにしのぐものです。ですがまさにわたしたちの反抗、弱さ、さもしさを通して、この愛の物語を紡ごうとしておられるのです。放蕩息子を抱きしめ、ご自分を否定した後のペトロを抱きしめ、つまずいたわたしたちを、いつも、いつも、いつでも、抱きしめておられます。そして起き上がらせ、立ち直らせてくださいます。本当のつまずきというのは――いいですか、よく聞いてください――、本当のつまずきというのは、いのちを台なしにしうるもので、それは、地べたに張りついたまま、助けてもらおうとせずにいることなのです。

（フランシスコ教皇　使徒的勧告『キリストは生きている』120番）

宇治修道院 中庭 甘夏の樹

心の泉



十字架の道行き（宇治カルメル会修道院）

第三巻

第二十三章　心に平和を与える四つの条件

6　知恵の光を求める祈り

《イエスよ、内的な光輝(こうき)で私を照らし、私の心の片隅からすべての闇を追い払ってください。私の放心を抑え、襲いかかる誘惑を打ち砕いてください。私のために強く戦い、凶暴な猛獣である邪欲を打ち倒し、あなたの力によって「私に平和を戻し」(詩編 122・7)、聖所、すなわち清い良心に、あなたへの賛美を響かせてください。風と嵐とに命じ、海に向かって「静まれ！」といい、風に向かって「吹くな！」と言ってください。そうすれば、大凪(おおなぎ)となるでしょう。(マタイ 8・26 参照)。「あなたの光と真理とを送ってください」(詩編 43・3)、それは、この世を照らすためです。私はあなたに照らされるまでは、空しいやせた土地のようなものです。あなたの恵みを天からそそぎ、私の心を天の露でうるおしてください。私の土地が豊かな実を結ぶように、敬虔な水を流し入れてください。罪の重さにつぶされそうになっている私の心を引き上げ、私のすべての望みを、天に向けさせてください。そうすれば、私は天の幸せを味わい、地上のことをいとうようになるでしょう。

　この世が与えるはかない慰めから私を遠ざけ、あなたのほうに引き上げてください。この世のものはすべて私の要求を満たさず、私を慰め得ないからです。愛と解けない絆で、私をあなたに結びつけてください。愛する心にはあなただけで足ります。あなたなしには、この世はすべて無価値なものです。》

１９－１２月　　日々を生きる

この子は泣いています
ごらん　かれは
あなたを呼んでいます
大声で　呼びかけています。
何を私に
求めておられるのでしょう

かれを愛しなさい
かれはあなたを愛し
あなたのために
寒さにふるえているから
ごらん　かれは
あなたを呼んでいます！

～アビラの聖テレサ～

日々の生活のざわめきの中で、
幼子の呼びかけを聞き分けることが
できますように・・・
よい待降節とご降誕を
お迎えください。

伊従　信子

ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（26）

九里（くのり）　彰

人を差別する心をずっと問題にしているが、これが「創造主への賛美」とどう関係しているのか、疑問に思っている人も多くおられるかも知れない。しかし、大いに関係があるのである。

なぜか？　それは、人を差別する心があるということは、本当の意味では、いまだ信仰の世界に入っていない、と言うことができるからである。その人は、創造主である神を創造主としてはいまだ認めておらず、信じてもいないということである。したがって、創造主を創造主として賛美することは、口先ではできるとしても、心からはできないのである。

実に信仰の世界に入るということは、神のはかり知れない愛の世界に入ることであり、この世から、この世の価値観・世界観から解放されることだと言ってよい。いまだにだれが上だとか下だとか自他を評価する世界にいる限り、人は人の目を気にし、自由になっていないのである。

この世は評価の世界である。人はこの世に生を受けるやいなや、絶えず人から評価され、またそれによってすべてが成り立っている。学業成績然り、仕事の業績然りである。スポーツの世界、芸能・芸術の世界、学問の世界、人間のあらゆる活動が、評価の対象となる。政治家も企業経営者も、実績をあげねばならない。結果が出ず、成績が優れていなければ、その地位を去らねばならない。しかし、どの分野であれ、そのトップに立ち、他より優れた成績を残せば、人々は彼を賞賛し、賛辞を惜しまないのである。そしてそこには、お金が結びついている。

簡単な例を挙げれば、小学校の運動会で 100 メートルの競争に優勝するとする。その時、彼は足が速いことを皆からほめられ、そのしるしに賞状と記念品が与えられる。その後も、天性の素質に加え、彼のたゆまぬ努力があれば、中学、高校、大学と優勝を続け、ついには日本代表としてオリンピックに出場し、金メダルを取るかもしれない。こうなると、単なるメダルやトロフィーや表彰状だけではすまされない。国民のヒーローとしてマスコミで絶えず報道され、さまざまな方面からお金が提供されるということになる。こうして、足が速いということだけで、普通のサラリーマンには一生かけても手に入らないような額の富を得ることとなる。

それゆえ、あらゆる分野で、全世界の人々が、世界のトップに立とうと、しのぎをけずるのである。名誉とお金が結びついているからである。もし何も得られないならば、だれが苦しい訓練に耐え、来る日も来る日もトレーニングに励むだろうか。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（141）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「自然と十字架のヨハネの関係」(3)

＊聖人をよく知っていた人々の一人である聖アンナのヨハネは、貴重な供述をしています。

「エル・カルバリオ修道院（ハエン）で院長であった時、私たちをしばしば野原へ連れ出し、そこで草と共に、また草のように私たちも創造主を賛美しましょうと語りました。そして詩編を歌いながら、私たちから離れて行きましたが、彼から火が出ているかのように顔は輝いていました」(BN-Madrid,ms8558,397)。

けれども、この聖アンナのヨハネの供述でもっとも興味深い点は、グアダリマル（ハエン）のソリウエラにある聖アンナの農場への聖人の訪問と滞在に触れていることでしょう。他のことに触れながら、こう言っています。

「十字架のヨハネ修父は、(バエサの) 学院長でしたので、とてもしばしばそこへ出かけました。というのもバエサは５～６レグア（３０km前後）しかなかったからです。時々一週間、滞在しました。詩編を歌いながら、特に夜、野原へ出てゆきました。何度か私も一緒に連れて行かれ、天やたくさんの星の光の美しさについて語っていました。それらは無数にあり、馬がライオンと異なるように、皆あれこれと異なっていると言っていました。また天の調和や、天体の運行によって生じるすばらしい音楽について語った後、幸いなる人々がいる天に達するまで昇っていきました。そこから、その美しさを賞讃し、彼らに与えられている天の美しさがどれほどであるか述べていました。このような話の後、かなり長い間、沈黙していました。私は、夜の長い時間であったため、眠り込んでしまいまったことに気づき、彼に言いました。

「神父様、行きましょう。寝ましょう、もうすっかり夜ですし、夜気は体に良くないですから」。彼は私にこう答えました。

「そう、行きましょう。あなたも寝たいということが分かりますから」(BN-Madrid,ms.8568)。

宇宙的なあるいは自然の夜を心から愛していました。修道院では、しばしば「修室の窓辺で空を見上げ」夜を過ごしていました。またセゴビアでのように、「木々の下で両手を広げて」一晩過ごしていました。

（続く）

待降節 第１主日

（マタイ２４・３７－４４）

典礼暦年は、「目を覚ましていなさい」という言葉で終わり、「目を覚ましていなさい」という言葉で始まります。それは、一年中、日々目を覚まして生きることが信仰生活というものだからだと思います。

何に対して目を覚ましているのか？それは主の訪れに対してです。クリスマスに人類を訪れてくださった神は再び私たちを訪れてくださいます。それは、終わりの時のだけではなく、日々繰り返しということでもあります。だから日々目を覚ましている必要があるのです。

マザーテレサは毎日二度イエス様と出会っていると言いました。一度目はミサの中で聖体拝領をとおしてイエスの訪れ受け、二度目は貧しい人々の中にいるイエスに出会うというのです。これはボーっと生きていたら絶対に分からない神秘です。目を覚ましてこそ可能となる出会いです。イエス様も「ボーっと生きてるんじゃねえよ！」と喝を入れているのかもしれません。

聖体の中にイエスがおられるのはカトリック信者にとっては周知のとおりです。「これはあなたがたのために渡されるわたしのからだである」とイエスは毎日ミサの中で繰り返しご自分を与えてくださるからです。

また、貧しい人の中にいるイエスも、確かな聖書のみことばです。「あなたがたは、わたしが飢えていた時に食べさせ、喉が渇いていた時に飲ませ、・・・病気の時に見舞い、牢にいた時に訪ねてくれた。この最も小さなわたしの兄弟にしてくれたことはわたしにしてくれたことなのである。」

こう見ると、イエスとの出会い、イエスの訪れは日々のことであることが分かります。ただし、目を覚ましていないと決して分からない神秘でもあります。日々目を覚まし、聖体のイエス、そして貧しく小さな兄弟の中にいるイエスを迎える習慣を持つ人は、終わりの時の決定的な主の訪れも、逃すことなく、確実にお迎えすることができるはずでしょう。また、毎年やって来る平和の祭典クリスマスを大きな喜びをもって迎え、私たちのうちにお住みになった神を深く味わい、祝うことができるでしょう。イエスがどこにも見当たらない世間的なクリスマスではなく、人類を訪れてくれた神の子イエスが私たちを照らし、力づけ、喜びで満たす本当のクリスマスを伝えていくことができますように目を覚ましていましょう。

（今泉健神父）

Ａ年 待降節 第２主日

（マタイ３：１－１２）

「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」

待降節第２主日の福音書では、待降節の中の最も重要な人物である洗礼者ヨハネが登場します。彼は、神の声、先駆者、使者であり、自分の全てを献身的に与えるとても謙遜な人でした。ヨハネは、先駆者としての自分の役割を謙虚に認め、聖なる救い主を迎える準備をするように人々に呼びかけ、その道筋をまっすぐにしました。そして悔い改め、回心、生き方の刷新を説いたのです。ヨハネは、まさに神のメッセージそのものでした。その預言的な声は神から来たものであり、人間の善に向けられていました。彼は、警告と同時に約束も発信しました。

ヨハネの役割は、真理を教え、ファリサイ派やサドカイ派の人々を含むあらゆる民の心をまっすぐにすることでした。人々に正義と正しさを伝え、神へと導きました。彼のメッセージはとても明確で、「神の国が到来したが、自分の行動を変える必要がある」というものです。ファリサイ派やサドカイ派の人々がヨハネに近づいてきた時、ヨハネは、彼らの偽善的な姿に心が乱れました。そして「蝮の子」と呼んだのです。蝮は、隠れた場所に潜む毒ヘビですが、その毒によって害を与え、殺すこともできます。こうした人々は、危険な悪の存在とみなすことができます。しかしヨハネは、彼らに対し、悔い改めと回心を呼びかけます。私たちの神は、あわれみの神であり、大きく腕を広げながら悔い改める者を一人残らず救い、その心を清め、正しい行いを生み出されるのです。抜本的な変化、つまり、メタノイア（metanoia。回心、悔い改め）への呼びかけです。

ヨハネの目的は、私たちが、主の到来を正しい方法でお祝いできるように促すことです。クリスマスの準備をすることは、ただ単に外面的な準備をするのではなく、むしろ内的な準備と回心に重点を置くことを意味します。私たちの心に主をお迎えする道を整える際、もし私たち自身に内的な平和と喜びがなければ、自分の家族、友人その他の人々と分かち合うことはできません。ベツレヘムでお生まれになった幼子は、世界を変えました。そして私たちも、まず自分自身を変えた上で、他者を変える使命を負っています。神の愛に与る招きを受けた私たちは、痛悔と悔い改めを通じて新しい生活様式を送ることで、この招きにふさわしく応えることができます。私たちを深く愛するしるしとして御独り子をお与えになった神のみ旨に従うために回心するよう、私たちは呼ばれています。 ***(Sr.Paulina)***

待降節 第３主日

（マタイ１１・２－１１）

牢にいた洗礼者ヨハネは、弟子を送って尋ねさせました。「来たるべき方はあなたでしょうか」。イエスは、見聞きしていることをそのまま伝えよと言われます。「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。」これを聞いたヨハネはすぐに分かっただろうと思います。「来たるべき方だ」と。目の見えない人の光となり、歩みの不確かな人を導き、孤独な人を出会いへと解放し、耳の聞こえない人に神の優しい言葉を聞かせ、生きる望みを失った人に希望を与え、貧しい人をご自分の存在で富ます方。100%困っている人のために来られた方。この人こそ「来たるべき方だ」とヨハネは悟ったはずだと思います。そして牢の中で喜び、安心して神のもとに向かう心を整えることができたと思われます。

私たちもヨハネのように喜ぶことができるでしょうか。宿屋にも泊めてもらえず、家畜小屋でお生まれになった幼子にどんな光を見ることができるでしょうか。ヘロデから命を狙われ、生まれた時から難民のような憂き目にあった幼子。そして、ナザレという貧しい町に住んだイエスをどうとらえますか？

高貴な生まれ、高貴な家、高貴な育ちではないところに大きな希望があると思います。この方は、上から手を差し伸べて恵んでくださるのではなく、最も低い人々と同じ地平に立ってくださり、一緒になって貧しさを生き、苦しんでくださることで神の愛をあらわしてくださったのです。

「しなやかな服を着た人なら王宮にいる。」そのような人を見たい人にとってはイエスのことは分かりにくいと思います。同様に、きらびやかな繁栄や成功、便利さだけを追い求める人も、クリスマスの本当の宝を発見することは難しいでしょう。洗礼者ヨハネのような心をもって来たるべき方をお迎えすることができたら幸いです。また、最初に降誕を告げ知らされたのが羊飼いだったことも大きなしるしです。彼らの共通点は貧しさです。彼らの持っていたまなざし、彼らの抱いていた希望を持って降誕祭を迎えることができるなら、イエスという宝を見つけることができると思います。「貧しさを心に持つこと、それが聖である」と教皇フランシスコが述べています（『喜びに喜べ』70）。貧しい人との連帯をとおして、彼らを大切にする具体的な行動と祈りをとおして、私たちも洗礼者ヨハネや羊飼いたちのような心を養っていきましょう。そして、本当のクリスマスの喜びを発見しましょう。

（今泉健神父）

待降節 第４主日（A）

（マタイ１：１８－２４）

本日、教会はマリア様とヨセフ様、そして幼子イエス様といっしょに来たるクリスマスを楽しむために、希望と準備の心をもって待降節最後の日曜日を祝います。

マタイの福音は、ベトレヘムでのイエス様の誕生の様子を伝えています。ヨセフ様は、夢の中で聖霊によってマリア様の懐妊を知らされます。神の救いのご計画によって、ヨセフ様はイエス様の父親になるように特別に選ばれました。謙遜で従順なヨセフ様は、神のご計画を受け入れ、完全に神秘の中に入り、家族を養育するという親の役割を果たします。

待降節とクリスマス・シーズンには、最も重要な人物がいます。それは「マリア様」です。マリア様は、天使ガブリエルからイエス様の母となるというお告げを受けました。お告げのとき、神には不可能なことは何もないといわれました。年とった従妹のエリサベトでさえ、子供を授かっています。私たちの神は驚きの神です。神が選んだ人に年齢や状況に関わらず驚くべきことをなさいます。マリア様は非常に信仰深い人でした。マリア様は信仰によって、神への忠誠心と信頼をもって、家族や友人たちの反応という大変な挑戦に立ち向かいました。「完全な承諾」により、マリア様は処女でありながら「神の母」となるという大きな責任の重荷を果たすことになります。自然の法に反する超自然的な受胎を受け入れるように求められたのです。マリア様は神のご計画と約束を深い信仰と乱されない信頼心で受け入れ、そして「お言葉どおり、この身になりますように」と言われます。そして、このようにして私たちは救い主イエス様の誕生を迎えます。

預言者イザヤは、この「この子」は「インマヌエル」と呼ばれるであろうと言っています。マタイはこれを「神は私たちと共にいる」という意味であると説明しています。私たちの救い主イエスは、この世の父である神の現存そのものです。聖ヨハネは「言（ことば）は肉となって私たちの間に宿られた」と言っています。そうです！イエス様は私たちの中に毎日住むために来られます。このクリスマスに、イエス様が私たち一人ひとりの中に生まれますように。主は私たちの心の中に入ることを望んでおられます。ようこそ、イエス様！！

親愛なる私の友人たち、そしてこの福音を読んだ皆さま、「クリスマスおめでとうございます。そして新年 2020 年が喜びに満ちたものでありますように！！」皆さまに神の祝福がありますように。 *(Sr.Paulina)*

聖家族

（マタイ２：１３－１５、１９－２３）

人となられた神のみことば、神の御ひとり子イエス、その神のみことばを胎に宿され、お産みになられた母マリア、そしてマリアと結婚してイエスの養父となられたヨセフ。このイエス、マリア、ヨセフの聖なる家族を今日、私たちはご一緒にお祝いします。

福音書では、イエスの誕生後の話が語られますが、夢でお告げを受けて自国へ帰って行った占星術の学者たちの話から始まります。そしてヨセフに主の天使が夢で現れて、ヘロデ王が幼子イエスを探して殺そうとしているため、エジプトに逃げる様にと言われ、ヨセフは夜のうちにイエスとマリアを連れてエジプトに向かいます。

救い主の誕生の喜びの余韻に浸る間も束の間、苦難の中でエジプトへの旅路を歩んでゆかれる聖家族、今まで生活していた土地を離れて異国の地に着き、そこで生活をする困難や苦労はどれほど大変なことだったのでしょうか。そしてヘロデ王が死去すると、再び主の天使がヨセフに現れて、イスラエルの地に行きなさいと告げ、ヨセフは新たな土地での生活の基盤を捨てて、今度はイスラエルへと帰っていきます。

戻った場所での生活も困難だったことでしょう。エジプトに逃げていて相当な期間、離れていた訳ですから、もしかすると住んでいた家や土地には、他人が住んでいたかも知れません。神の子の家族、イエス、マリア、ヨセフの聖家族は、生活の初めの頃から困難や苦難な中にあった訳です。

その様な中にあった聖家族ですが、忠実に神に従う姿が見られます。神に従うことによって神に導かれ、預言者によって語られていたことが実現してゆきます。そして神の救いのご計画がイエスを通して実現してゆき、ヨセフは従順によって神が導いて下さる出来事に与ることになります。

導いておられる神に従い、神のみ使いに従うことで神に従う、この聖家族の姿を眺め、私たちも苦難の状況にあっても、困難な状況にあっても、神に忠実に従ってゆくことができます様に。

（Fr.　古川利雅）

糸巻き棒からペンへ(48)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

聖女自身、このことをそのように解釈しています。聖ヨセフ修道院を創立するための準備について語っている箇所で、何人かの友人は、ある人々の悪意について彼女に知らせてくれたと述べています。その人々は、彼女の計画をぶち壊すために、彼女を異端審問所に訴えようとしていたのでした。「友人たちは恐れおののきながら私のところへ来て、今は難しい時代で、人々は私について何か訴えるかどを見つけ出し、私を宗教裁判に引き出すかもしれないと申しました」(『自叙伝』33,5)。聖女がこの件について後に述べる時には、それを茶化していますが、その時は、そのことで大変苦しまなければならなかったのです。

いずれにせよ、主ご自身が、念祷の中で「この家は、神の小さな隠れ家、神の喜びの天国」(同 35･12) となると語られ、「壊されない」(同 36･16) から心配しないようにとおっしゃることによって、聖女を慰めたのです。人々も聖女と修道女たちの生き方を知り始めると、あらゆる偏見は打ち砕かれ、以前の迫害者たちの多くが恩人へと変わり、彼女たちに好意を抱くようになったのです。「人々はこの家に対してたいへん信心を持つようになりました」(同 36・25)。聖女にとって、「全生涯のうちでもっともののんびりした５年間」(『創立史』1・1) が始まりました。

新しい生活様式

そうこうしているうちに、アビラの聖ヨゼフ修道院では、聖女が御託身修道院で学び、決して捨て去らなかったカルメルの伝統の本質的な原則が取り入れられていきました。イエス・キリストへの崇敬の生活は、神の言葉への愛、祈りを重視する傾き、沈黙の内に内面を養うこと、祈りと奉仕の模範としての聖母マリアや預言者エリアとの関わりなどで、特徴づけられていました。

このカルメルの遺産に、他の新しい洞察が調和的に結びつけられていきます。この洞察は、将来、教会を培う霊性のもっとも豊かなものの一つとなるものを生み出すことでしょう。テレジアにとっては、すべてが始めからはっきりしていたわけではありません。修道院の姉妹達との共同生活と絶えざる対話が、キリストに従う道を徐々に特徴づけていくのです。

(P. 九里訳)

いのちの言葉　12月

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が
帰って来られるのか、あなたがたには分からないからである。

（マタイ 24・42）

マタイ福音書のこの箇所で、イエスはご自分が、予期せぬときに再び戻って来られると語り、弟子たちに心の準備を促します。

当時も人々は、戦争や貧困など、あらゆる苦しみと多くの困難を抱えて暮らしていました。イスラエルの民は、そうした状況に主ご自身が介入され、苦しみの涙を拭って下さることへの希望を抱き続けていました。彼らが「待ち望む」こととは、驚きではなく救いのときであり、苦しみから解き放たれることを意味していたのです。

ここでイエスは、一つの偉大な人生の秘訣を教えてくれます。それは「今の瞬間をよく生きる」ことです。なぜなら、私たちは神様のことをつい忘れて、日々の生活に埋没し、明日のことを心配しますが、主は思いがけない時に戻ってこられるからです。

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って
来られるのか、あなたがたには分からないからである。

では、目を覚ましているとはどういう意味でしょうか。それは、大きな歴史の流れの中にも、私たちの日常の中にも、そこに働いておられる神様の存在を見究めるように。闇の中に生きる人たちが、永遠の命につながる道を発見できるために、具体的に愛するようにという、イエスの呼びかけではないでしょうか。

イエスの再来がいつになるかは分かりません。それゆえキリスト者は、常に「待つ」という態度で生きることになり、同時に今の瞬間を精一杯生きるよう促されます。つまり、明日ではなく今日愛すること。いつかではなく、今赦すこと。予定がびっしり詰まった手帳に、空いた時間を見つけたときではなく、今まさにこの瞬間に直面する現実を切り開いていくことでしょう。

このみ言葉を黙想しながら、キアラ・ルービックは書いています。

「いつか素晴らしいことが起こる、そんな期待をしながら、日々の人生を何となく引きずるように生きていませんか。確かに、素晴らしいことはいつか起こるはずです。ただそれは、あなたが想像しているものとは違うでしょう。人には、神聖な本能ともいえるものがあり、自分を満たしてくれる“誰か”や“何か”を待ち望むものです。例えばお祝いの時や、待ち

に待った自由な時間、特別な人との出会いなどを想像します。けれど、それらのことが叶ったとしても、完全には満たされないまま終わることに気づかされます。そうして、確信を持てないまま、いつも何かを期待し続ける日々にまた戻ってしまうものです。ところが、私たちの人生において、誰もが避けて通ることのできないものがあります。それは、主と一対一で出会うことです。これが、無意識にあなたが求めている“素晴らしいこと”なのです。私たちは幸せに向かって生きるよう造られています。そして、その満ち満ちた幸せは、主だけがお与えになることができるのです。」1

だから、目を覚ましていなさい。いつの日、自分の主が帰って
来られるのか、あなたがたには分からないからである。

主イエスは、一人ひとりの人生の終わりにはもちろん来られますが、今すでにおられるイエスの存在にも目を向けることができます。それは、私たちが分かち合うご聖体のうちに。耳を傾け、実践すべきみ言葉の内に。受け入れ愛すべき兄弟姉妹のうちに。そして、私たちの良心に語りかける声の内に。

人生には多くの挑戦が突き付けられます。「いつになったらこの苦しみは終わるのだろう…？」と問いたくなります。けれども、私たちは主が介入されるのを受け身の姿勢で待つわけにはいきません。あらゆるチャンスを活かして、神のみ国の到来と、兄弟愛のご計画の実現を早めるよう努めましょう。小さな愛の行い、親切な振舞い、笑顔一つでも愛ゆえに与えるなら、「待ち望みながら生きる」私たちの人生も、さらに豊かなものとなるでしょう。

スペインのとある病院付きのチャプレン、パコの経験を紹介します。病院には高齢の患者さんたちが多く、進行性の重い病気に苦しむ人もいます。「ある高齢の患者さんは宗教嫌いで、よく怒鳴ります。ある日私は彼の部屋をノックしつつ、一瞬のためらいを感じましたが、神様の愛を証ししたいと思い、出来る限りの笑顔で部屋に入りました。彼に優しく話しかけ、秘跡の素晴らしさについて説明しました。秘跡を受けたいかと訊くと、彼は「ぜひ！」と答えました。告解をし、ご聖体を受け、病者の塗油を受けました。その後も少し長く彼と共にいました。部屋を出るとき、彼は穏やかで、その場にいた娘さんはとても驚いていました。」

レティツィア・マグリ

1 C. ルービック　1978年12月のいのちの言葉より

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：https://www.focolare.org/japan/

「小さな親友」ことごと　　石原淳子

深く心に届き魂のよろこびとなり、その時々の私を支え、励まし、慰めてくれる書物。　まるで時機に叶って恵みとしてどこかから贈られてくるかのそんな本を、私は数冊いつでもすぐに手が届く傍らに置いて、「小さな親友」と呼んで愛好していることを、以前ここに書き記したことがありました。

それは愛読という段階を越えて心の糧であり、糧というよりはもっと親密な生きた交わりであり、親友と呼ぶしかないのです。　これまでの長い時をふり返ってみれば、かなりの数の本たちがその時その時の私の「小さな親友」として悲しみもよろこびも苦しみも共にしてきたのでした。

数年前に当誌に書き記したのは若松英輔の「悲しみの秘義」でしたが、これは今もなお定位置にあり、晴佐久神父様の「だいじょうぶだよ」とともにもはや頁は手ずれでよれつつあります。　もう少し前には高嶺の花であるかのように憧憬をこめて愛読してやまない凛としてひたむきな須賀敦子。　そして静謐でいのちの力に満ちている石牟礼道子の文章、これらはぼんやりと独りになったときに、読むという段階ではなく親友と語るがごとくに必ず手に取って、静かな親密な時間を得て深く私自身を取り戻したものです。　そのもっともっと前には、詩篇であったり、トマス・マートンであったり、「回想のシモーヌ・ヴェイユ」であり、ダグ・ハマーショルド、そして今ではおそらく現存も疑問ですが、十字架の聖ヨハネのことを書いた「きらめく夜」というオレンジ色の手帳のような小型の本。　それから私の大切な聖テレジアの「最後の言葉」。まだまだ心に浮かび来ますがどれもこれも外も内もボロボロというのがふさわしい恰好になっていて、やはりこれらは私にとっては本というのではなく、読むというのではなく、もっと別の世界のもの・・・深く触れ合い支えてくれた私の「小さな親友」たちなのです。

こんなことに思いがいったのは、実は夫がこのところ数冊の小さなノートをそれこそ「小さな親友」のように手元に置いて、暇に飽かしては頁を開いて熱心に読み辿っているのを見ての事なのです。

夫はもうあらゆる力が衰えていて、読むことも書くことも筋道を追うことも叶わず、すべて思うようにはならなくなっています。　新聞の断片は読みますが一冊の本を読み通すこともならず、テレビの連続ドラマもつながってゆきません。　また長年に渡る当誌への今に至る厖大な数のこの原稿も、先ずの熱心な読み手であったのですが、そして今もなお必ず目を通してはいるのですが、如何なることになっているのかは私にもよくわかりません。

もともといわゆる「本を読む人」ではないのですが、それでも若い時には新刊の推理小説を互いにせっせと読み合って、私が先に読んだものをついつい気が乗って犯人のヒントを口走り、夫は本気で腹を立てて互いにむっつりしたことなどありました。　ほんとうにささやかな読書会もあったのです。

今、夫が手元に置いて手に取っているものは、二人でこれまでにあちこちへと小さな旅をした折の、私が書き記してきた日記、メモのような記録なのです。

旅にあってこれぞというものを心の内にとどめ置く時、人がカメラを向けるように私は小さなノートに刑事の手帳みたいだと言われつつ、あれこれといろいろなことを書き記しました。

旅行というよりは、思ってみればその本質は二人の居る場所をあちこちへと移動したというようなものなのですが、夫が病を得て外出が叶わなくなるまでずいぶん回数を重ねたものでした。　里山歩き的な日帰りの遠足のこともその記録をしたためてあり、こうして今読むと昔のことで忘れていたこともありながらも、その日その時は否応なしに心懐かしくよみがえってきます。

ふと思い立って或る日夫に差し出してみたのでした。

夫はこれだったら気力、集中力、関心興味などが続くようで読みながら何のかのと声をかけてきます。　今忙しいのにやれやれと思いつつも、そうだそうだったとその日その時に連れ戻され、あらためて思いを馳せたりもしています。

小さい数冊のノートは、今日のこの日を思い描いて溜まっていたわけではなかったのですが、こうして手に取られるとき、旅の記録にとどまらず人生の大切な断面、スケッチブックのようにも思えてきます。

夫婦の関わりは「小さな親友」とそのありようなどは重なるところもあるとはいえ、でも「小さな親友」などと言って済むものでもなく、何と言ったらよいのでしょうか、「これこそ、ついにわたしの骨の骨、わたしの肉の肉」と言うのでしょうか。

神さまは造ったすべてのものを見られたところ、それははなはだ良かったそうです。　命の息を鼻に吹きいれられ、人を生きたものとされました。

ほんとうにうれしいこと、有り難いことと思っています。

（上野毛教会信徒）

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　2019年10月23日

跣足カルメル修道会
「第四回 アフリカ、マダガスカル、インド洋諸島 大会」開催

跣足カルメル修道会“第四回 アフリカ、マダガスカル、インド洋諸島 大会”が、兄弟愛的生活を中心テーマにして、２０１９年１０月１３日から１８日まで開催されました。大会は１０月１３日の日曜日、カメルーンのムボルエにある使徒の聖母、聖マリア大聖堂で、首都ヤウンデの大司教 モンセニョール ジーン ムバルガの主司式によるミサで始まりました。

大会中、跣足カルメル修道会総長 ザベリオ・カニストゥラ神父が臨席され、アフリカ、マダガスカル、インド洋諸島担当の総長顧問 ダニエル・エヒギ神父も出席されました。また、スエーデンのストックホルム教区から、親愛なるカルメル会士 アルボレィウス枢機卿も特別出席され積極的に大会に参加されました。アフリカ、マダガスカル、インド洋諸島のすべてのカルメルファミリーは皆で、彼の感動的で支持的な存在感に感謝の意を表しました。

この大会の終結メッセージはウエブページのドキュメントからフランス語と英語で見ることができます。

（訳：小宮山延子）

カルメル誌　新刊案内

2019年　秋号　No.374

《祈りを学びたい人のために》*******

信仰生活(再)入門　テレーズと共に歩む　幼子の道(7)
—祈りを始めるために(3)主の祈り
片山はるひ

パウロの祈りに学ぶ(3)感謝とキリストの愛をたたえる祈り
—コリントの教会への手紙Ⅰ　田畑邦治

エディット・シュタインが教える祈り(II)　須沢かおり

現代社会において　祈りの人となるには(3)　九里　彰

****

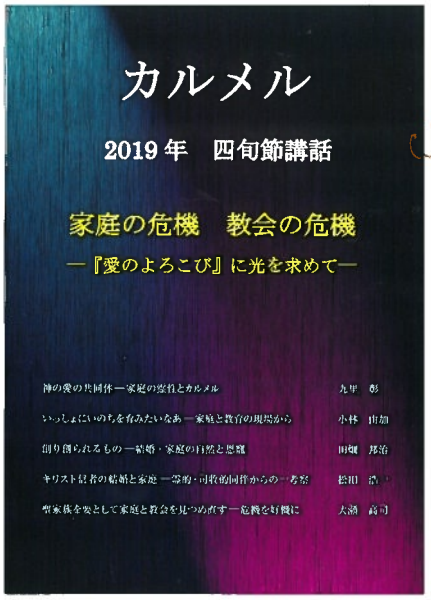
風に吹かれて(21)—妖怪サトリ
原　造

キリストに伴われて季節を巡る(7)　伊従信子

イエスの聖テレジアの聖体(エウカリスティア)への信心
松田浩一

六十年を遡って恋をする　森　みさ

カルメル会の会則に見る
アシェーシスと修道生活(7)　九里　彰



2019年 特集号

「家庭の危機　教会の危機」
—「愛のよろこび」に光を求めて—

神の愛の共同体—家庭の霊性とカルメル
九里　彰

いっしょにいのちを育みたいなぁ
—家庭と教育の現場から
小林由加

創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵
田畑邦治

キリスト信者の結婚と家庭
—霊的・司牧的同伴からの一考察
松田浩一

聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す
—危機を好機に
大瀬高司

ご案内　　1冊 520円　A5サイズ　50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円（+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬+特集号　計　3,500円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax:03-3704-1764

又は E-mail: hisa_ima520@ezweb.ne.jp

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL：03-3322-7601　FAX：03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

サンパウロ

愛と英知の道

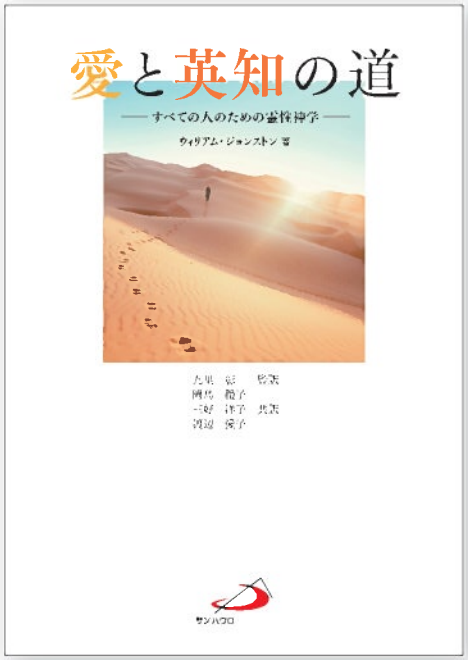
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

2020年のご案内

年間テーマ　手をとりあい、自ら歩み出す

大瀬高司 師

好評の 2019 年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

●アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
●知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
●かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
●聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
　杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
●新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
●いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
　吉川まみ（環境学者）

継続連載

●典礼暦と季節の味わい（応用編）
　柳谷晃子（食文化研究所主宰）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

○口座番号：００１７０－２－８４７４５
○加入者名：オリエンス宗教研究所
○ご購読料：７５００円（税・送料込）
○備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年 11 回、8・9 月合併号）7500 円（税・送料込）一部定価 600 円＋税

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601　Fax 03-3325-5322　https://www.oriens.or.jp/

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

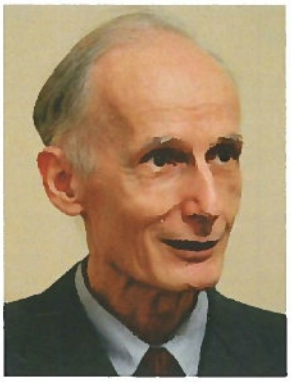
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
【クリスマス】　１２月２４日(火)～２５日(水)朝食≪講話なし、夕食なし≫
２０２０年 １２月２４日(木)～２５日(金) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

【聖週間】聖木曜日から復活祭まで通して参加できます。またどの曜日からでも
　　参加可能です。
２０２０年 ４月９日(木) 夕食～４月１２日(日) 朝食 ≪講話なし、各食事つき≫

聖書深読黙想会　(土曜日１８時～日曜日１６時)
　　１１月３０日(土)～１２月１日(日)　大瀬高司 神父
　２０２０年　５月３０日(土) ～３１日(日)　カルメル会士
　　７月　４日(土) ～　５日(日)
　　１０月３１日(土) ～１１月１日(日)
　２０２１年　２月２７日(土) ～２８日(日)

一日黙想会：(水曜日１０時～１６時・昼食付)　カルメル会士
　《　カルメル会聖人に学ぶ黙想会　》
　　１２月１８日　ジョニー神父
　２０２０年　１月２２日　今泉健神父
　　２月１９日　ウィリー神父　三位一体のエリザベット
　　３月２５日　ジョニー神父
　　４月１５日(水)　５月２０日(水)　６月１７日(水)　７月２２日(水)
　　９月１６日(水)１０月２１日(水)　１１月１８日(水)１２月１６日(水)
　２０２１年　１月２０日(水)　２月１７日(水)　３月１７日(水)

一泊黙想会　(土曜日１６時～日曜日１６時)
　２０２０年　志村武神父
　　１月１８日～１９日
　　３月１４日～１５日

２０２０年　今泉健神父
４月１８日(土)～１９日(日)
７月１１日(土)～１２日(日)
１０月２４日(土)～２５日(日)
２０２１年　今泉健神父
１月２３日(土)～２４日(日)
３月１３日(土)～１４日(日)

奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士
１２月２７日(金)～１月　５日(日)
２０２０年　８月　１日(土)～８月１０日(月)
８月１６日(日)～８月２５日(火)
１２月２７日(日)～１月　５日(火)

青年黙想会(男女)　３５歳位まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士
２０２０年　２月１５日(土)～１６日(日)
２０２０年　５月１５日(金)～１７日(日)
２０２１年　３月２６日(金)～２８日(日)

召命黙想会（男女）４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）　カルメル会士
１１月２２日(金)～２４日(日)
２０２０年　１１月　６日(金)～　８日(日)

特別黙想会（初日２０時～最終日１６時）Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
２０２０年　１１月１３日(金)～１５日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。
＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
＊ 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所:　カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導:　志村　武神父

会費:　¥6500

日時:　2019年　5月25日(土)～26日(日)　16時開始、翌日16時まで

7月　6日(土)～ 7日(日)　〃

11月　9日(土)～10日(日)　〃

2020年　1月 18日(土)～19日(日)　〃

3月14日(土)～15日(日)　〃

＊お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
〒158－0093　東京都世田谷区上野毛2－14－25
TEL.03－5706－7355
FAX.03－3704－1789
Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

―カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日―

日　　時　：　２０２０年　1月１１日（土）　１３時 から １７時

場　　所　：　カルメル修道会　日比野（本部）修道院　（ カトリック日比野教会 ）

プログラム　：　１３時　～　講話・黙想など
　　１６時　～　ミサ（ミサ中に教会の祈り）、サルヴェ・レジナ（ミサ後）
　　１７時　　解散

・受付開始は１２時半頃。　・プログラム途中、ゆるしの秘跡の時間を設けます。
・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他　：　参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
（ 尚、当日は、１，０００円 程度のご寄付を宜しくお願いいたします。 ）

問い合せ　：　郵便、ＦＡＸ、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便　456-0062　名古屋市 熱田区 大宝 ４－５－１７
ＦＡＸ　０５２－６８１－６４４５
E-mail　hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュールなど

★次の土曜静修は、2020年２月１日（土）。尚、３月以降の予定は、現時点では未定です。
尚、静修は第１土曜日とは限りませんので、霊性ｾﾝﾀｰﾆｭｰｽ、ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ 等でご確認下さい。

【ホームページ】 http://www.carmel-monastery.jp

＜ 主催 ＞　男子跣足カルメル修道会 日比野（本部）修道院　（大瀬神父・古川神父）

宇治カルメル会　黙想会案内
（2019 年 12 月～2020 年 3 月）

【一般のための黙想】・1 泊 2 日（午後 5 時～午後 4 時）
2020 年
1 月 18 日（土）～19 日（日）　この時代をイエスと生きる　中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前 10 時～午後 4 時）
2020 年
1 月 25 日（土）　中川博道神父
3 月 14 日（土）　中川博道神父

【水曜の黙想】（午前 10 時～午後 4 時）
12 月 18 日（水）　主が生まれる私たちのうちに　中川博道神父
2020 年
2 月 26 日（水）　復活への道〈灰の水曜日〉中川博道神父
~~3 月 18 日（水）　まだ眠っているのか？　Sr. ロサ~~　中止

【土曜の黙想】（午後 1 時～午後 6 時）
2020 年
3 月 7 日（土）　苦しみの中イエス　中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後 5 時～午後 4 時）
12 月 14 日（土）～15 日（日）　十字架の聖ヨハネ　中川博道神父

【四旬節の黙想】　（午後 5 時～午後 4 時）

2020 年
3 月 7 日（土）～8 日（日）　「荒野での試み」　~~中川博道神父~~ → 志村武神父　変更

【奉献生活者の黙想】（午後 5 時～午前 9 時）
12 月 27 日（金）～1 月 5 日（日）　中川博道神父

【待降節の黙想】（午後５時～午後４時）
~~12 月 7 日（土）～8 日（日）「メシアのしるし」　九里彰神父~~ **中止**

祭日のミサに参加するために
チェックイン午後４時以降可　チェックアウト午前 11:30｛講話なし 各食事つき｝

【クリスマス】
12 月 24 日（火）～12 月 25 日（水）

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－
☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

諸所の企画案内

真命山　霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
詩編の会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０１９年 ― 祈りの集いのご案内

「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

２月１４日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

１月１０日　「わたしはある」（ヨハネ8:２４.２８）
２月１４日　「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:１２.１２:４６）
３月１４日　「わたしは門である」（ヨハネ１０:７－９）
４月１１日　「わたしは良い羊飼いである」（ヨハネ１０:１４）
５月　９日　「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ１１:２５）
６月１３日　「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:３５.５１）
７月１１日　「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ１４:6）
８月　　休み
９月１２日　「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ１５:１－１２）
１０月１０日　「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ２８:２０）
１１月１４日　「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
１２月１２日　「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ１８:２０）

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
www.shinmeizan.com

祈りの集い

【 2019年12月7日（土）】

午後２時～5時30分

日々の生活のざわめきの中で

マリアとともに幼子を待つ

担当　伊従　信子

【 2019年12月14日（土）】

午後２時～5時30分

人生の夕べに、愛について問われるでしょう　（パートII）

十字架の聖ヨハネのこの言葉は
わたしたちに何を語るのか、ご一緒に考えます

講話・祈り・分かち合い　　担当　中山 真里

****

場　所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jesuits.or.jp/　　**込み受付・・開始日の８日前まで**

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	2020 年 1/5(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※ TEL　090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo.co.jp
フォローアップ 新Ⅰ	1/19(日) 9:30-17:00	サダナ チーム	同上 ※16時からミサあり。 椅子での黙想です。	同上
サダナ１	2/8(日)17:30- 11(火)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野毛修道院　黙想の家(上野毛)	同上
サダナⅡ	3/18(水)17:30- 22(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会　町田修道院	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、*090-5325-2518*（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子　Tel＆Fax：042-325-7554

◆サダナⅠ（入門A.B.C）…体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナⅡ…Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ…サダナⅠを終えた方。

◆サダナ新Ⅰ…入門 A.B.C（サダナⅠ）に参加された方の引き続きの前進のために、その良さを噛みしめながら進みます。以前体験したことを復習しながらの歩み出しです。

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
１４：００～１６：００

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

【2019年予定】　聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

~~1月24日　まことの家族とは~~ 終了
~~「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）~~
~~3月21日　祈りと祈りの場~~ 終了
~~「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）~~
~~5月16日　人間の傲慢~~ 終了
~~「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）~~
~~7月25日　神の愛と隣人愛~~ 終了
~~「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）~~
~~9月26日　信仰と救い~~ 終了
~~「あなたの信仰があなたを救った。」（ルカ7・50；8・48；18・42）~~
~~11月28日　神の愛と回心~~ 終了
~~「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」（ルカ19・10）~~

１２月１９日　謙遜と従順　（講話の後、ミサ）
「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院　（２０２０年）

◎ 所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　１丁目　３－１
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-ﾒｰﾙ：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通：　JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 黙　想

A.　８日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2020 年 5 月 10 日（日）～　5 月 18 日（月）
② 8 月 14 日（金）～　8 月 22 日（土）
③ 10 月　4 日（日）～　10 月 12 日（月）
④ 12 月 27 日（日）～2021 年 1 月 4 日（月）

B.　祈りの体験：週末３日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2020 年 2 月　7 日（金）～　2 月 9 日（日）
② 2 月 28 日（金）～　3 月 1 日（日）
③ 3 月 27 日（金）～　3 月 29 日（日）
④ 6 月 12 日（金）～　6 月 14 日（日）
⑤ 7 月 17 日（金）～　7 月 19 日（日）
⑥ 9 月 18 日（金）～　9 月 20 日（日）
⑦ 11 月 13 日（金）～11 月 15 日（日）

C.　講話　黙想（奉献生活者のため）

2020 年 6 月 22 日（月）夕食 ～ 6 月 30 日（火）昼食
九里　彰 師（カルメル会）

◎ **対　象：** 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ **霊的同伴者：** 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ **申込み**： 1) 氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)　2) 〒住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
８日間の黙想は　先着順　１１名、週末３日間の黙想は先着２名　です。

いずれの場合も、１０日前までに申し込んでください。

D.　独身女子青年の集い

2020 年 7 月 25 日（土）～ 26 日（日）
9 月 12 日（土）～13 日（日）
11 月 7 日（土）～ 8 日（日）

申込み：唐崎修道院　Sr.　桂川美代　（**℡ 077-579-2884**）

E.　その他：　司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。）

午後の静修＜講話・念祷・ミサ＞へのおさそい

≪わたしが生きることに渇く神≫

― 灰の土曜日に―

日　時：2020 年 2 月 29 日(土)
12 時 ～ 16 時（受付 11 時半）

指　導：中川博道神父　（カルメル修道会）

対　象：どなたでもご参加ください。

※実費費用の為に献金をお願いします。

上履きをご持参ください。

要申込：住所・氏名・電話番号・所属教会
をご記入の上、
FAX 又はメールにて　（返信します）
定員になり次第〆切（12 月 2 日から受付開始です）
FAX:045-402-5131
e-mail:shihennokai@gmail.com

場　所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉 1-5
JR 中央線/営団地下鉄　丸ノ内線・南北線　「四ツ谷」駅下車
サンパウロ→ドンボスコ→ファミリーマートを左折
→甘栗太郎を右折→道なりに右折→90m 直進
四ツ谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

問合せ：TEL/FAX：045-402-5131（藤井）
e-mail: shihennokai@gmail.com

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

11月25日、フランシスコ教皇様のミサに参加することができました。開祭まで長時間待つ間も、会場の人々は、おだやかで和気あいあいとした様子でした。

そして、教皇様が到着されると、東京ドームは、歓声につつまれました。一人の存在が、五万人を超える人々の心をいっきに歓喜に換えられる様子に、教会の頭として教皇を立てておられる主ご自身の現存を感じました。超人的なスケジュールをこなし、お疲れの色をにじませながらも、柔和で平和にたたずみつづけられるお姿に、あの偉大な使徒聖パウロの言葉を思い起こしました。

「わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。…死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために」（第二コリント4.7）

命を掛けてイエスを追い求めておられる人のすがたは、言葉に尽くせない、魅力を放っていました。

人々はそれぞれが幸せを携えて帰途についているようでした。

教皇様のもたらしてくださった喜びと平和が日本の隅々にまでいきわたりますように祈りたいと思います。

平和の君イエスが皆様のうちにお生まれになりますように。

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日　　１２月１９日(木)　午前１０時頃から
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456